

令和6年度 えがおプロジェクト リフレッシュ事業  
「リフレッシュ サマーキャンプ(奥能登地区)～第1クール～」

### 1 趣旨

- ・令和6年能登半島地震により、被災した児童・生徒に自然に親しみながらの体験活動を提供することで、心穏やかに、心身ともにリフレッシュする機会とする。
- ・楽しかった1学期が終わり、リフレッシュできる長期休業中に児童・生徒が仲間と寝食を共にすることで仲間を思いやり、自己の成長や自分の良さに気付き、今後の生活に自信を持って生活できるようにする。

### 2 日程

- (1) 期日 令和6年8月3日(土)～6日(火) 3泊4日  
(2) 参加者 小学1年生～中学1年生 50名  
(3) 活動内容

1日目【8月3日(土)】			2日目【8月4日(日)】		
9:00	能都中学校 輪島ふらっと訪夢	Aバス発(能都中学校→到着) Bバス発(輪島ふらっと訪夢→ JAのと穴水支店	6:00	宿舎	起床、清掃
11:00	玄関ロビー	→到着)	7:00	かんぼ広場	朝のつどい
11:00	講堂	バス着(能登青少年交流の家) 出合いの集い・OR 仲間づくり(NOTOジョイフレンド)	7:15	食堂	朝食
12:30	食堂	昼食	8:30		活動準備
13:30	活動	NOTO チャレンジタイム	9:00	☀️柴垣海岸 ☂️館内	NOTO ときどきタイム 昼食(弁当)
17:00	かんぼ広場		16:00	浴室	入浴
17:45	食堂	タベの集い	17:00	かんぼ広場	ゆうべのつどい
18:45	体育館	夕食	17:30	食堂	夕食
20:00	浴室	NOTO のびのびタイム	18:30	体育館	NOTO のびのびタイム
21:00	宿泊部屋	入浴	19:30	体育館 駐車 場	NOTO わくわくタイム
22:00	宿舎	翌日準備 就寝準備・就寝	20:30	浴室	入浴
			21:30	宿泊部屋	翌日準備
			22:00	宿舎	就寝準備・就寝
3日目【8月5日(月)】			4日目【8月6日(火)】		
6:00	宿舎	起床、清掃	6:00	宿舎	起床、清掃
7:00	かんぼ広場	朝のつどい	7:00	かんぼ広場	朝のつどい
7:15	食堂	朝食	7:40	食堂	朝食
9:00	☀️キャンプサイト ☂️体育館	テントづくりタイム(晴) のびのびタイム(雨)	8:40	宿舎	テントサイト片付け
10:30	ふれあいの広場	NOTO わくわくタイム 創作活動	9:00	テントサイト(晴)	宿舎点検
12:00	食堂	昼食	9:30	研修室	NOTO メモリアルタイム
13:00	野外	NOTO わくわくタイム 野外活動	12:00	食堂	昼食
15:00	ふれあい広場	NOTO クッキングタイム 野外炊飯	13:00	講堂	振り返りタイム
20:00		NOTO 焚火タイム	13:30	講堂	またねの会
21:00	浴室	入浴	14:00	玄関ロビー	Aバス発(→JAのと穴水支店 →輪島ふらっと 訪夢)
21:30	宿舎	就寝準備・就寝	15:20		Bバス発(→能都中学校)
			16:00		Aバス (JAのと穴水支店着) Aバス (輪島ふらっと訪夢) Bバス (能都中学校)

### 3 成果と課題

- (1) アンケート結果からの成果(振り返りシートより)
- ① 事業の満足度は、46人中44人が「とても楽しかった」、2名が「楽しかった」という評価であった。事業全体を通して高い評価を得ることができた。
  - ② 海での活動では、サップと磯遊びをした。全ての参加者が初めてサップで、「何度も海に落ちたけど練習したら上手にサップを操ることができた。」「友達と一緒にサップの上に立つ

ことができた。」と海の活動を満喫し、楽しかったという感想を述べていた。

- ③ 野外炊事ではカレーバイキングを実施した。「みんなで協力したから美味しくできた」という声が多く聞かれた。活動中も積極的に片付けをしたり、掃除をしたりする姿も見られ、子供たちの仲が深まった活動でもあった。様々な活動をみんなで協力して取り組んだことで「みんなの名前を覚えた」「友達がたくさん作ることができた」と感想も多かった。

(2) 事業を通しての成果と課題

- ① ボランティア 14 名の参加があり、1 班に 2 名ずつの体制を組むことができた。熱中症対策、活動における安全管理など多くのスタッフの目できめ細かく看取ることができた。また、ボランティアには看護学校の高校生 5 名がいたこともあり、海でのクラゲに刺された後の対処や、熱中症の予防につながる水分補給や休憩の仕方など、他のボランティアと共有を図りながら安全に活動を進めることができた。
- ② フードハント（オリエンテーリング）の活動では、野外において気温が高い中での活動となった。十分な休憩を取りながら活動をしたが、小学校低学年の児童にとっては、長い距離を歩く活動となり、体力的に厳しいコース設定となった。当日の天候や参加者の体力を十分に把握して、より安全で効果のある活動を考える必要があったと感じる。

